

## 平成 29 年度

# College of Pharmacy, Western University of Health Sciences, USA

## との国際交流

水野広基、大成遥、平松梨緒香、鈴木里菜、田川佳於里  
(グループ 3)

平成 30 年 2 月 12 日から 2 月 26 日までアメリカ薬学研修を行ってきた。研修中は主に協定校である College of Pharmacy, Western University of Health Sciences (ウェスタン大学薬学部) を訪問し、その他にもアメリカの医療施設を見学した。われ我は、研修内容の中でも Patient Care Center (PCC) についてまとめた。

### 1. PCC

PCC には、医療センター、フットアンドアングルセンター、アイケアセンター、歯科センター、薬局があり、年間 10,000 人以上の

患者にサービスを提供している。このセンターは、糖尿病教育センターであり、糖尿病患者に効率的かつ高品質のケアを提供するように設計された患者中心の大学敷地内にある施設である。

PCC では、医師や看護師ではなく臨床薬剤師が患者をサポートしていた。相談室があり、患者が医師や薬剤師には言えない悩みを聞くカウンセラーがいて、その悩みを臨床薬剤師などに伝えてより良い治療が行えるようになっていた。糖尿病のリスク要因がカテゴリーごとに分かれていて、それぞれリスクの度合いごとに色分けされており、患者に伝わりやすいように工夫されていた。



Diabetes Cross-Disciplinary Index (DXDI<sup>®</sup>)

	1	2	3	4	5
1	100-120	120-130	130-140	140-150	150-160
2	100-120	120-130	130-140	140-150	150-160
3	100-120	120-130	130-140	140-150	150-160
4	100-120	120-130	130-140	140-150	150-160
5	100-120	120-130	130-140	140-150	150-160



糖尿病の治療は日本と同様に食事療法と運動療法から始める。食事のバランスが詳しく決まっており、誰が見ても分かるようにイラスト化されていた。しかし、アメリカは様々な文化が入り交じり、多様な食生活があるため、食事のアドバイスは難しいと言われてい

る。



糖尿病の注射薬を用いて、注射操作を患者に分かりやすく伝える方法を学んだ。



GLP-1 (glucagon-like peptide-1) 作動薬であるリラグルチドは糖尿病患者だけでなく心臓病患者や肥満患者にも使われていた。

アメリカの薬剤師は血糖値測定のために、患者から血液を採取することができる。

## 2. PCC 内の薬局について

錠剤は、ボトルに入っており、ABC 順に並べられていた。薬のボトルが床付近まで並べられていたことが印象的であった。

米国の医療現場を実際に見学するという貴重な経験をさせていただいた。研修で学んだことを活かして、これからも日々様々なことに努力していきたい。

